

パシフィコ横浜で

ジャパンフィッシングショー

カサゴ種苗を放流

の釣り用品などに人だかりができ、18日には社会貢献活動として来賓や地元の保育園児によるカサゴ種苗の放流が行われた。

オープンセレモニーで島野容三会長は「釣りを通して健やかな未来と豊かな社会になることを願う」とあいさつした。

「LOVE BLUE 事業放流式」はみなどみらい21臨港パーク潮入りの池で行われた。放流種苗を供給した神奈川県栽培漁業協会の今井利為専務は「工業会にはこれまでの6年間で東京湾に10万尾のマダイ種苗を放流していただいた。その結果、マダイがよく釣れるようになり、カサゴやクロダイも増えてい

る、と漁業者や遊漁者は源増大に今後も協力して話している。環境を大切に「ほしい」とあいさつ。そのあと来賓45人と地元のにじいる保育園の園児15人が合計300尾のカサゴ種苗を会場近くの海に放流した。

工業会は今回、合計5000尾(体長約7センチ)を放流したが、残りの4700尾は横浜市・本牧海釣り施設の海に放流した。

保育園児と来賓がカサゴ種苗を放流

